

療育のあゆみ

2024 年（令和 6 年）度業務統計

福 井 県
福井県こども療育センター

2025 年（令和 7 年）7 月

はじめに

こども家庭庁が創設されて、2年が経過しました。創設と同時に、すべてのこどもや若者が幸せな生活ができる社会の実現を目指して「こども基本法」が制定され、様々な「こども施策」が進められています。そこでは、障がいの有無に関わらず、全てのこどもの基本的人権が守られ、適切な養育、生活、愛情、教育などの権利が守られること、こどもの養育は家庭を基本としながら養育者への十分な支援を行うことなどが基本理念の一つとして挙げられています。

当センターも「こども基本法」の基本理念を中心としながら、以下の理念と基本方針に基づいて、医療と福祉の両面からの活動を行っています。

理 念：

「私たちは、あらゆる障がい児のために療育環境と療育技術の向上に努力いたします。」

基本方針：

- 1) あらゆる障がい児に対し、高度な医療と福祉を提供いたします。
- 2) 県内各関連機関との連携を強化し、地域療育拠点施設として貢献いたします。
- 3) あらゆる障がい児の成長過程に合わせた QOL（生活の質）の向上を目指して、個々のニーズに対応いたします。

障がいを持つ子どもたちの状況は年々変化しており、家族とともに生活し地域での療育や教育などの支援を受けるという方向へと進んでいます。当センターでも、そうした情勢を踏まえた取り組みを 2024 年度（令和 6 年度）も行ってきました。外来での講座や特別外来などを継続するとともに、地域支援として嶺南支援事業（2011 年（平成 23 年～））、小児療育担当職員等実務研修（2014 年（平成 26 年～））、リハイク（2020 年（令和 2 年～）特別支援学校へのリハビリ相談事業）、リハシル（2022 年（令和 4 年～）地域の支援機関への出前講座）などを実施しました。また、医療型障害児入所施設つくし園については、入所者が減少する一方、在宅児の短期入所という形での家族支援ニーズが高まっていることを受け、空床を利用した短期入所拡充のために施設改修工事が行われています。引き続き、長期的な視点に立って、療育体制の充実に取り組んでいきます。

今後も支援の必要な児とご家族、支援者の方々の声をお聞きしながら、当センターに求められる役割を果たしていく所存です。皆様のご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

この「療育のあゆみ」は、2024 年（令和 6 年）度の業務実績をまとめたものです。

ご高覧のうえ、ご意見・ご感想をいただければ幸いです。

2025（令和 7）年 4 月

福井県こども療育センター所長 畑 郁江

目 次

I センターの概況	
1 業務概要	1
(1) 療育相談・診療部門	
(2) 福祉施設部門	
(3) 地域支援活動	
(4) ボランティア活動	
(5) 広報活動	
2 沿革	8
3 職員・各種委員会	9
II 業務統計	
1 療育相談・診療部門	
A 外来新患	10
(1) 相談別集計	
(2) 年齢別集計	
(3) 紹介元別集計	
(4) 住所別集計	
A-1 各科外来新患分類	12
(1) 小児科	
(2) リハビリテーション科	
(3) 整形外科	
(4) 耳鼻咽喉科	
(5) 児童精神科	
B 診療・療育相談	16
(1) 外来児の取扱数（診療科別延人数）	
(2) 手術件数	
(3) ボトックス治療実施件数	
(4) 診療科別処方数	
(5) 診断書・意見書等作成件数	
(6) 補装具作成件数（椅子など）	
(7) 補装具作成件数（装具）	
(8) 放射線部位別撮影件数	
(9) 生理検査件数	
(10) 検体検査件数	
(11) 心理判定・心理治療件数	
(12) 心理判定・心理治療の障がい別実人数	
(13) 心理治療技法別件数	
(14) 種類別心理検査実施件数	
(15) 医療ソーシャルワーカー相談件数	
(16) 栄養指導延件数	
(17) 外来講座実施状況	
C リハビリテーション（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・音楽療法）	22
(1) 理学療法の障がい別実施件数	
(2) 理学療法の年齢別実施人数	

- (3) 作業療法の障がい別実施件数
- (4) 作業療法の年齢別実施人数
- (5) 言語聴覚療法の障がい別実施件数
- (6) 言語聴覚療法の年齢別実施人数
- (7) 音楽療法の障がい別実施件数
- (8) 音楽療法の年齢別実施人数

2 福祉施設部門

A 医療型障害児入所施設 つくし園	30
(1) 月別在籍数 (初日現在)	
(2) 障がい別集計	
(3) 年齢別集計 (入所時)	
(4) 住所別集計	
(5) 進路別集計 (退所時)	
(6) 在籍期間別集計 (退所時)	
(7) 重複症状別人数	
B 児童発達支援センター つばさ	33
(1) 月別在籍数 (初日現在)	
(2) 障がい別集計	
(3) 年齢別集計 (通所開始時)	
(4) 住所別集計	
(5) 進路別集計 (退所時)	
(6) 在籍期間別集計 (退所時)	
(7) 重複症状別人数	
(8) 水治療室利用件数	
C 生活介護事業所 「オアシス」	36
(1) 月別在籍数 (初日現在)	
(2) 月別利用者延べ人数	
(3) 障がい別集計	
(4) 年齢別集計 (年度開始時)	
(5) 住所別集計	
(6) 入浴利用者延べ人数	
(7) バス通所利用者延べ人数	
(8) 重複症状別人数	
D 短期入所	38
(1) 利用件数	
(2) 重複症状別人数	

3 地域支援活動

A 療育研修会	39
B 療育支援活動	40
(1) 診療科別実施状況	
(2) 地域支援課実施状況	
(3) 特別支援学校リハビリ相談事業～リハイク～実施状況	
C 嶺南地域療育機能強化支援事業	44
D 子育て講座実施状況	46

4 その他の活動

A ボランティア活動	47
(1) ボランティアの受入状況	

B 実習・見学

(1) 実習生研修状況

(2) 施設見学・視察受入状況

C 水治療室の利用者別実施人数

Ⅲ 研究業績		48
1 学会発表		48
2 講演		50

I センターの概況

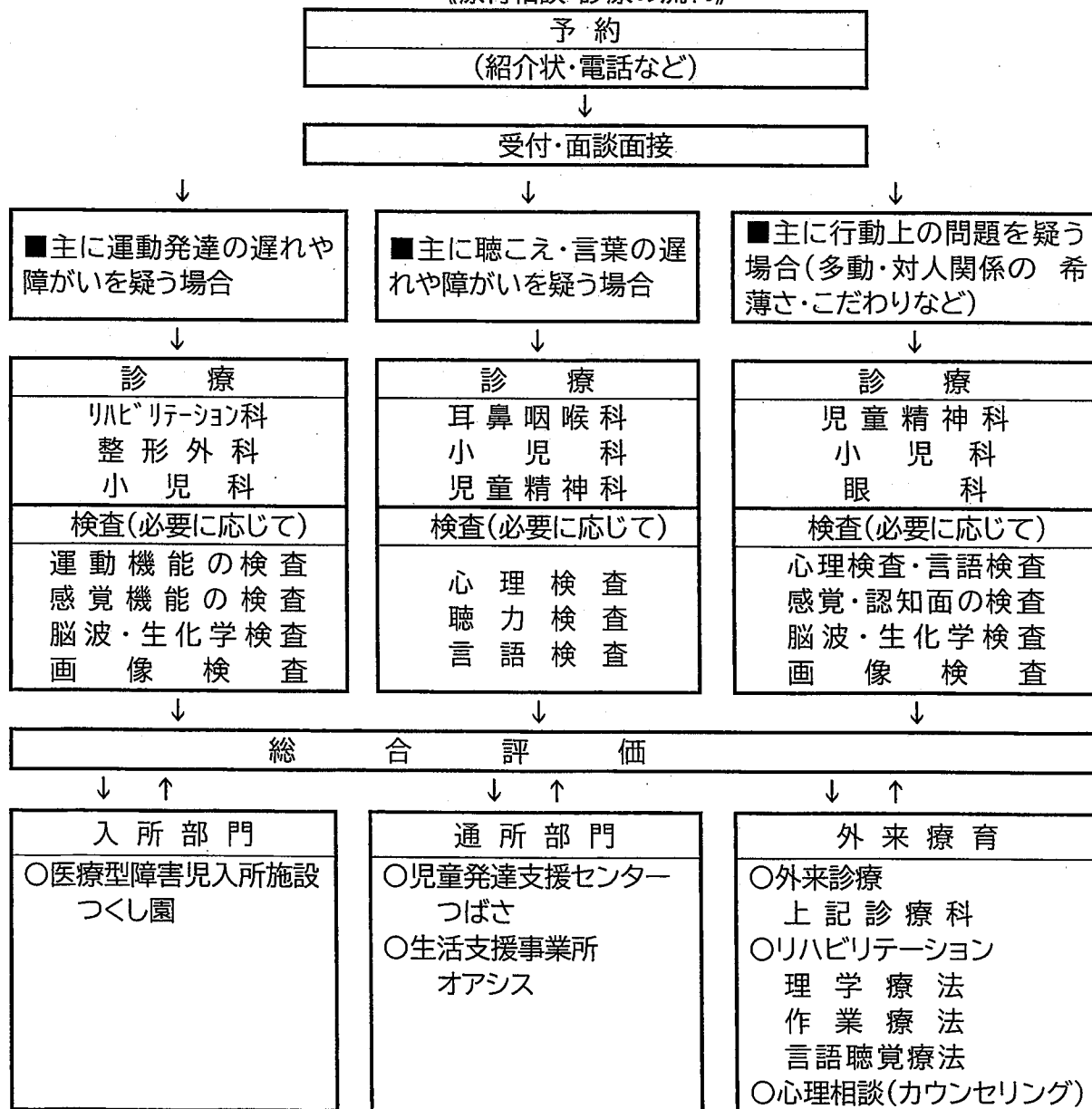
1 業務概要

こども療育センターは、医療と福祉の機能を併せ持ち、医師など 15 に渡る職種の職員がチームを組んで障がい児のために総合的できめ細やかな療育を行っている機関です。

また、下表のように、医療や保健、児童福祉、教育機関など、各関係機関とも相互に連携を取り合っています。

医 療	保 健・福 祉	教 育
福 井 県 立 病 院 各 医 療 機 関	総 合 福 祉 相 談 所 児 童 相 談 所 県 健 康 福 祉 セ ン タ ー 市 福 祉 事 務 所 市 町 保 健 セ ン タ ー 保 育 所、児 童 発 達 支 援 相 談 支 援 事 業 所 な ど	特 別 支 援 教 育 セ ン タ ー 特 別 支 援 学 校 そ の 他 の 諸 学 校 幼 稚 園 な ど

《療育相談・診療の流れ》



(1) 療育相談・診療部門

生後間もなく身体や発育の異常に気づかれたお子さんや、地域の医療・福祉・教育の機関等で気がかりさを指摘されたり発達遅れを疑われたお子さん達が、専門的な診断・治療を希望して保護者や関係者とともに窓口を訪れます。

紹介制を原則とし、あらかじめ電話等で日時の予約をしていただきます。初診予約は医療ソーシャルワーカーが対応し、相談の内容に応じて、診療、検査、テストなどの順序や組合せを考え、予約を受け付けます。

診療にあたり、医師(リハビリテーション科・小児科・整形外科・耳鼻咽喉科・児童精神科・眼科)はお子さんの成長発達全体について専門的な検討を行います。それを踏まえて、各種機能の発達の遅れや異常、精神発達の状態像を正確に把握するために、必要に応じて各部門で次のような諸検査が行われています。

生理的検査	脳波検査、心電図、聴性脳幹反応検査など
画像検査	X線撮影、超音波検査など
身体運動機能検査	〈理学療法〉身体計測、筋力テスト、関節可動域テスト、感覚(知覚)検査、脳性麻痺簡易運動テスト(SMTCP)など
精神運動発達検査	〈理学療法〉日本版デンバー式発達スクリーニング検査、運動年齢検査、ADLテストなど 〈作業療法〉乳幼児発達スケール(KIDS)、こどものための機能的自立度評価表(WeeFIM)など
認知・感覚面の検査	〈作業療法〉フロスティッグ視知覚発達検査、WAVES、感覚プロファイルなど
聴力検査	条件詮索反応検査(COR)、遊戯聴力検査、純音聴力検査など
言語発達等検査	絵画語彙発達検査、田研式言語発達診断検査(語彙検査)、質問-応答関係検査、言語・コミュニケーション発達スケール、改訂版小学生のための読み書きスクリーニング検査など
音声に関する検査	構音検査、発声・発語器官機能検査など
心理検査	新版K式発達検査、WISC-V、田中ビネー知能検査、PARS、Vineland-II適応行動尺度、描画テストなど

このような多方面にわたる検査や評価を統合して、持ち込まれた問題への対応策が示され、お子さん本人やご家族に対して、毎日の生活に密着した養育の指導がなされます。

外来診療としては、てんかん発作のコントロール、自閉スペクトラム症などの発達障がいへの児童精神医学的かわり、言語・聴覚障害児の言語聴覚療法や補聴器装用指導、肢体不自由児の義肢・装具の装着、一般病院では対応の難しい小児整形外科疾患の診断・治療、理学療法・作業療法および心理療法(遊戯療法など)などの専門的な治療を行っています。

なお、事後の継続的な医学的観察や治療の一部は、紹介医療機関などに依頼することもあります。

そのほかに、特別外来として、2024年度は以下のものを実施しました。

- ・「ペアレント・プログラム外来」(発達障がい児の保護者対象。公認心理師が担当。)
- ・「ペアレント・トレーニング外来」(発達障がい児の保護者対象。公認心理師が担当。)

- ・「PECS 外来」(ことばでのコミュニケーションが苦手な発達障がい児対象のコミュニケーション支援。言語聴覚士が担当。)
- ・「ももくり外来」(発達障がい児の家でとりくめる ADL プログラム。作業療法士が担当。)
- ・「しゃべり場」(発達障がい児本人のグループトーク。公認心理師が担当。)
- ・「水治療法」(運動に遅れや障がいがあるお子さん及び運動が苦手なお子さん対象のプールでのプログラム。理学療法士が担当。)
- ・「こあら外来」(未歩行のお子さんが対象。医師、理学療法士、保育士等が担当。)
- ・「カナリア外来」(発達障がい児の保護者対象の学習会。医師、公認心理師が担当。)

お子さんの発達や機能の向上には、家庭や集団生活場面での指導方法や留意点についての助言が求められます。保健や栄養・心理面への配慮、子育て環境の調整などについての各専門スタッフによる指導や援助も欠かすことができません。

当センターでは、保護者支援の一環として講座を行っています。2024 年度も実施しました。

当センターではお子さんが本来持っている力を最大限発揮できるように、成長・発達を支えます。ご家族と一緒に、お子さんを取り巻く地域社会の機能や資源も活用して、お子さんが生き生きと楽しく生活できるように考えることを療育相談・診療部門の役割としています。

(2) 福祉施設部門

こども療育センターは、医療と福祉がひとつになった、障がい児のための総合療育機関であり、療育相談・診療部門と福祉施設各部門が連携しています。

児童発達支援センター つばさ 定員40名/1日
運動や対人・コミュニケーションの発達に専門的支援を必要とする就学前のこども達が親子で通所する施設です。それぞれの発達状態や特性に合わせたグループ療育を行っています。 保育士や看護師等が保育や健康相談等を提供する中で、健康面、情緒面、生活面やコミュニケーション面の発達援助に取り組んでいます。 また、お子さんが地域社会で自分らしく成長し、家族とともに楽しい生活が送れるよう、保護者支援や地域療育支援も行っています。
医療型障害児入所施設 つくし園 定員50名
運動発達の遅れや運動機能に障がいがある 18 歳までのお子さんに対して、整形外科、リハビリテーション科、小児科などの医学的管理のもと、治療や看護、発達支援、日常生活指導、保育など、一人ひとりの個性を大事にした療育を行っています。また、理学療法、作業療法、言語療法などお子さんに必要なリハビリテーションを行い、機能の向上や発達を促しています。 学齢児童は隣接する福井東特別支援学校へ通学することができます。 (母子入所) 乳幼児で治療上付き添いが必要な場合は、お子さんと母親と一緒に入所することができます。 (短期入所) 18 歳未満の肢体不自由児・重症心身障害児、18 歳以上の重症心身障害者を対象としています。保護者の様々の理由により、一時的に自宅で介護を受けることが困難なお子さんを、日帰りから原則 1 週間までお預かりしています。ご家族のレスパイト(休息)としてもご利用いただけます。
生活介護事業所「オアシス」 定員15名
対象は、高等学校卒業後(18歳以上)の重症心身障がい者です。 看護師の医療的な関わり、療法士と共に行う身体運動、保育士による日中活動などを提供することにより、社会性の向上や運動機能の維持・向上を目指します。成人期の社会生活につながるよう様々な集団活動を行っています。

(3) 地域支援活動

1) 療育研修会

障がいのある子どもの地域社会への参加・包容(インクルージョン)の推進のため、保護者や支援者を対象に、さまざまな分野において造詣の深い講師を招き、障がい児・者支援に関する知識や情報などを講義や実技指導を通し学ぶ研修会を行っています。

また、障がいのある子どもの健やかな育成のために、地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育、就労支援等の関係機関が連携を図り、切れ目のない一貫した支援を提供する体制の構築を図れるよう、支援者を対象に、所内見学会やグループワークを行うなど、当センターの役割・機能の周知や、顔の見える関係作りの機会等を通じて、地域との連携を深めるような取組みも研修会の一部として行っています。

療育研修会を通して、障がい児・者への理解、支援の輪が広がり、関係機関が繋がることで、障がい児・者の日々の生活がより過ごしやすく、豊かなものとなるよう取り組んでまいります。

2) 療育支援活動

専門的な療育・教育機関等からの要請を受け、センターの職員が出向いて医学的管理や療育技術の指導を行うなどの支援を行っています。主な支援活動は表のとおりです。

施設・学校・機関	内 容	スタッフ
地域療育拠点施設 (委託医療機関及び事業所)	小児療育体制確保事業(県障がい福祉課)の受託施設に対して、診療および療育を担当する職員への研修を行う。	医 師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士
福井県教育委員会	就学指導委員会において、就学児等の各種相談・病状などに対し、医療面から専門的助言などを行う。	医 師
福井市子育て支援室	保育所入所児発達相談専門委員会において、保育所入所希望児の各種相談・病状などに対し医療面から専門的助言や指導を行う。	医 師
福井市教育委員会	教育支援委員会や特別支援専門委員会において、就学児等の各種相談・病状などに対し、医療面から専門的助言などを行う。	医 師
特 別 支 援 学 校	特別支援学校での学習や生活現場における医学的な留意事項や介助、支援方法を家族および担当教諭に専門的な立場から助言などを行う。	医 師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士
学校 児童福祉施設 障害福祉サービス事業 所	教員、保育士、支援者等に見学の受け入れや障がいや気がかりさのある児、者への理解を深めるための研修を行う。	医 師 保育士 公認心理師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士
児童発達支援センター 児童発達支援事業所	事業所利用児の発達健診や保護者学習会等を通じ、保護者への支援や職員指導、市町の支援体制づくりへの助言などを行う。	医 師

3) 嶺南地域療育機能強化支援事業（地域支援グループ）

気がかりさがあるお子さんの療育は、「子どもの身近な地域における早期からの支援」が求められており、県全域で必要とされる専門的療育を提供する体制が必要です。このため福井県では医療と福祉の機能が一つになった、総合療育機関であるこども療育センターから遠方の嶺南地域に対して、地域療育拠点病院や事業所にリハビリテーション職種を派遣を行ってきました。

2012年度からは、言語聴覚士と公認心理師を若狭健康福祉センターに駐在、理学療法士と作業療法士をセンターから派遣しています。病院や事業所、市町の母子保健や相談事業へ研修等を通じて、支援方法の提案を行っています。

4) 小児療育担当職員等実務研修（児童発達支援センター つばさ）

2010、2011年度に、発達障がい児支援に関する人材育成の一役を担う目的で、「発達障害児支援に関する保育士研修」を旧難聴幼児通園施設ひばり園（現児童発達支援センターつばさ）で受け入れました。（2012、2013年度については、諸般の事情により行っていません。）

2014年度からは、地域療育の充実を図るために、「小児療育担当職員等実務研修」を児童発達支援センターつばさで受け入れています。

2017年度から研修型のペアレント・プログラムのコース、2022年度は出張講座「ほめるコツ～ペアレント・プログラムのエッセンス～」、2023年度からは出前講座「ほめるコツ～ペアレント・プログラムのエッセンス～」に名前を変えて実施しています。

2023年度以降の実施内容は以下の通りです。

対 象：地域で発達障がいをはじめとする障がい児への支援に従事する職員。

研修コース：1週間コース、ペアレント・プログラム（ペアプロ）コース、

出前講座「ほめるコツ～ペアレント・プログラムのエッセンス～」コース

研 修 内 容：障がい児に対する直接的な支援方法や保護者支援等に関する技術の習得を図ります。

＊ペアレント・プログラム：子育ての困り感を丁寧に分析し、子や自身を行動で捉え、できたことをほめる子育て、また、保護者同士の仲間づくりを目指すプログラム。

5) ペアレント・プログラム（児童発達支援センター つばさ）

2015年度より保護者を対象に、2017年度からは小児療育担当職員等実務研修「ペアレント・プログラム」コースを兼ねたペアレント・プログラムを実施しています。

6) 子育て講座（児童発達支援センター つばさ）

2014年度より保護者を対象に、2021年度から支援者も対象に実施しています。

7) 地域支援グループ（理学療法士(PT)・作業療法士(OT)・言語聴覚士(ST)・公認心理師)の活動

特別支援学校を対象にしたリハビリ相談事業「リハイク」は、実際の授業場面や、学校生活に立ち会い、リハビリテーションの視点から教育現場に取り入れやすい支援方法を提案しています。当日の記録は後日、資料として提供しています。

また学校、児童福祉施設、障害福祉サービス事業所等に出向いて、実際の様子を伺いながら、各施設に合わせた出前講座「リハシル」を実施しています。

(4) ボランティア活動

ボランティア活動は利用者サービスの向上に寄与するとともに、活動者にとっては自己実現のための自発的な活動です。当センターでも『福井県こども療育センターボランティア運営要綱』を定め、活用を図っています。

(5) 広報活動

ホームページおよびパンフレットにて当センターの紹介をしています。

2 沿革

- 昭和 35 年 6 月 肢体不自由児施設「福井県立あかり学園」(定員 50 名)開設
昭和 36 年 12 月 母子室 10 床完成(定員 60 名)
昭和 42 年 4 月 「福井県あかり整肢園」に名称変更「福井養護学校」併設
昭和 46 年 4 月 肢体不自由児通園センター(定員 30 名)開設
昭和 51 年 3 月 福井県児童福祉審議会提言
「医療・福祉・教育各分野での三位一体の機能を持つ心身障害児
総合相談センターが必要である」
昭和 54 年 4 月 県立病院内に県立福井養護学校四ツ井分校開校
昭和 58 年 4 月 福井県立福井東養護学校開校
昭和 58 年 4 月 福井県小児療育センター開設
本県の総合療育施設として県立病院敷地内に東養護学校、特殊教育
センターと共に一体的に整備。肢体不自由児施設「つくし園入所部」
(定員 50 名)、同「つくし園通所部」(定員 30 名)、難聴幼児通園施設
「ひばり園」(定員 30 名)を設置
平成 15 年 4 月 小児療育センター再整備基本計画策定
県立病院再整備に伴う「県立総合医療センター」構想の一環として策
定
(基本理念)
①あらゆる障がい児に対し、総合的かつ高度な医療と福祉を提供
する総合療育センターを目指す
②県内各圏域の地域療育支援施設や市町村保健センター、保育所
および教育機関等との連携を強化し、本県地域療育の拠点施設
とし貢献するセンターを目指す
③あらゆる障がい児の成長過程に合わせた QOL(生活の質)の向
上を目指して、個々のニーズにあった施設や人的貢献を提供でき
るセンターを目指す
平成 17 年 4 月 新施設建設開始
平成 19 年 4 月 新施設開設
「福井県こども療育センター」に名称変更
「福井東養護学校」「特別支援教育センター」「県立看護専門学校」と共
に同じ建物内に一体的に整備された。
「リハビリテーション診療科」を新設
重症心身障害児(者)通園事業 A 型「オアシス」を開始
平成 24 年 4 月 児童福祉法の改正により、施設部門はそれぞれ、
医療型障害児入所施設つくし園
医療型児童発達支援センターつくし園
福祉型児童発達支援センターひばり園
としてみなし指定
「オアシス」は児童発達支援・生活介護事業所に変更
平成 25 年 4 月 医療型児童発達支援センターつくし園と福祉型児童発達支援
センターひばり園を統合し、
児童発達支援センター つばさを開設
令和 3 年 4 月 「オアシス」は児童発達支援を休止
令和 7 年 3 月 再整備により重症心身障害児(者)通園事業 A 型「オアシス」は
閉所

3 職員・各種委員会

当センターの業務運営にかかわる職種別人員と各種委員会は、以下のとおりです。

1) 職種別人員

(2023年4月1日現在)

人員 職種	職員数 〔()は非常勤外数〕	摘 要			
所長（医師）	1	診療科別医師数			
事 務 職 員	4				
医 師	7（8）				
薬 剤 師	1				
栄 養 士	2				
診療放射線技師	1				
臨床検査技師	1				
看 護 師	25				
公 認 心 理 師	4				
医療ソーシャルワーカー	2				
保 育 士	13				
理 学 療 法 士	6				
作 業 療 法 士	5				
言 語 聴 覚 士	8				
音 楽 療 法 員	(1)				
			常勤	非常勤	兼務
リハビリテーション科	1				
小児科	5	4	2		
外 科			1		
整形外科	1	1			
耳鼻咽喉科	1		1		
眼 科			1		
児童精神科		3			
麻酔科			1		

(臨時任用職員は含めない)

2) 各種委員会

危機管理委員会
 医局会
 利用者サービス改善委員会
 虐待対応委員会
 情報委員会
 診療録管理・医事委員会
 広報図書委員会
 研修委員会
 感染対策委員会
 薬事委員会
 医療機器安全委員会
 医療ガス安全管理委員会
 療育安全管理委員会
 NST 委員会
 栄養管理委員会
 褥瘡対策チーム
 防災委員会
 倫理審査委員会
 改修委員会

Ⅱ 業務統計

1 療育相談・診療部門

A 外来新患(全診療科)

(1) 相談別集計

(単位:人)

相談内容 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
運動のおくれ	43	48	52
言葉のおくれ	135	139	173
落ち着き、集中	89	61	92
やりとりが苦手	31	21	29
こだわりが強い	15	17	12
学習の苦手さ	28	9	18
不登校／登園しぶり	8	6	2
睡眠について	4	0	2
股関節脱臼	309	269	285
背骨の変形や痛み／痛み	26	26	43
手足の変形／痛み	38	40	45
補装具作成	1	1	0
歩き方など	23	12	10
聴力	27	29	29
発音の問題	22	35	28
診断書作成	2	1	0
その他	67	39	50
合計	868	753	870

(2) 年齢別集計

(単位:人)

年齢 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
6ヶ月未満	300	263	286
1歳未満	29	29	40
1歳	76	71	70
2歳	74	60	70
3歳	108	104	116
4歳	91	72	86
5歳	63	57	90
6～12歳	99	75	93
13～17歳	26	20	19
18歳以上	2	2	0
合計	868	753	870

(3) 紹介元別集計

(単位:件)

紹介者	年度	2022年度	2023年度	2024年度
福井県立病院		40	59	69
他の医療機関		474	429	464
学校		4	5	3
幼稚園・保育所		9	4	4
児童相談所		3	1	1
市町村		218	197	269
児童発達支援センター		30	23	31
その他		90	35	29
合計		868	753	870

(4) 住所別集計

(単位:人)

住所	年度	2022年度	2023年度	2024年度
福井市		366	327	376
永平寺町		20	26	25
坂井市		115	118	146
鯖江市		86	71	77
あわら市		43	24	24
越前市		87	94	108
越前町		11	6	18
池田町		2	2	3
勝山市		23	16	10
大野市		22	15	17
南越前町		7	8	6
嶺北計		782	707	810
敦賀市		49	19	34
美浜町		8	3	2
若狭町		5	1	2
小浜市		4	2	2
高浜町		1	0	0
おおい町		0	1	1
嶺南計		67	26	41
県内計		849	733	851
県外計		19	20	19
合計		868	753	870

・表の住所:こども療育センターから直線距離で近い順

A-1 各科外来新患分類

(1) 小児科

障害別集計

(単位:人)

障害の区分			年度	2022年度	2023年度	2024年度
神経発達症	神経発達症群	知的発達症		40	30	22
		言語症		28	25	24
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)		115	96	133
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞なし)		118	85	120
		特異的学習症		13	3	2
		発達性協調運動症		2	3	7
		チック症、トゥレット症候群		1	0	0
		注意欠陥多動症		48	34	41
		吃音症、その他の神経発達症		9	6	8
精神神経疾患	一時性精神症など	統合失調症、気分症など		0	0	0
	不安関連症群	緘黙、社交不安症、分離不安症など		4	0	3
	強迫症群	身体への反復行動症など		0	0	0
	ストレス関連症群	反応性アタッチメント症 脱抑制性対人交流症 心的外傷後ストレス症など		1	0	1
	衝動制御症群など	間欠爆発症、反抗挑発症など		1	0	0
	その他	睡眠障害、遺尿・遺糞症、食行動症など		0	0	2
その他	染色体、遺伝子の異常など	ダウン症候群		9	6	10
		その他		3	6	2
	その他	不登校など		6	4	0
中枢神経(脳・脊髄)疾患		脳性麻痺(疑いも含む) 中枢性協調障害		9	5	3
		脳血管障害		1	0	0
		脳炎・脳症		0	2	2
		その他		0	4	0
(末梢)神経・筋疾患		筋ジストロフィー		0	3	0
		その他		0	2	3
原因不明の発達の遅れ				19	21	27
言語機能障害		言語発達遅滞		8	6	30
聴覚障害		難聴		2	0	0
音声機能障害		構音障害		10	2	6
小児整形外科疾患		乳児股関節脱臼・亜脱臼		0	0	0
		発育期に特有の下肢の変形		0	0	0
合 計				447	343	446

(2) リハビリテーション科

障害別集計

(単位:人)

大分類	小分類	2022年度	2023年度	2024年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む) 中枢性協調障害	4	3	4
	二分脊椎	0	0	1
	脳血管障害	0	1	1
	脳炎・脳症	1	1	2
	その他	1	0	1
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー	1	4	1
	その他	1	2	0
染色体、遺伝子の異常など	ダウン症	4	4	6
	その他	4	5	4
原因不明の運動の遅れ		11	5	4
骨系統疾患	骨系統疾患	0	0	1
小児整形外科疾患	子宮内圧迫症候群	0	0	0
	斜頸	0	0	0
	先天性内反足・内転足など	1	0	1
	乳児股関節脱臼・亜脱臼	0	0	0
	発育期に特有の下肢変形 (O脚・X脚など)、歩容異常	10	4	19
	脊柱変形	1	0	0
	バルテス病	0	0	0
	筋骨格外傷および後遺症	2	0	0
	その他	4	2	12
	その他	2	0	0
精神神経疾患	その他	2	0	0
合 計		47	31	57

(3) 整形外科

障害別集計

(単位:人)

大分類	小分類	2022年度	2023年度	2024年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む) 中枢性協調障害	0	0	0
	二分脊椎	1	0	1
	脳血管障害	0	0	0
	脳炎・脳症	0	0	0
	その他	2	0	0
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー	0	1	0
	その他	1	0	1
先天異常・染色体異常など	ダウン症	0	0	0
	その他	0	0	6
原因不明の運動の遅れ		1	3	1
骨系統疾患	骨系統疾患	6	1	1
小児整形外科疾患	子宮内圧迫症候群	311	268	282
	斜頸	12	6	4
	先天性内反足・内転足など	5	6	12
	乳児股関節脱臼・亜脱臼	3	2	2
	発育期に特有の下肢変形 (O脚・X脚など)、歩容異常	28	29	15
	脊柱変形	32	32	44
	ペルテス病	1	0	0
	筋骨格外傷および後遺症	1	2	1
	その他	13	13	12
合 計		417	363	382

(4) 耳鼻咽喉科

障害別集計

(単位:人)

障害区分	大分類	2022年度	2023年度	2024年度
聴覚障害	難聴	55	65	54
音声機能障害	構音障害	16	21	29
	その他	2	4	1
言語機能障害	言語発達遅滞	2	3	1
合 計		75	93	85

(5) 児童精神科

障害別集計

(単位:人)

障害区分			年度	2022年度	2023年度	2024年度
神経発達症	神経発達症群	知的発達症		0	12	1
		言語症		2	1	1
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)		6	17	10
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞なし)		4	51	10
		特異的学習症		0	2	2
		発達性協調運動症		1	0	0
		チック症、トゥレット症候群		0	0	0
		注意欠陥多動症		1	21	11
		吃音症、その他の神経発達症		0	0	0
精神神経疾患	一時的な精神症など	統合失調症、気分症など		0	0	1
	不安関連症群	緘黙、社交不安症、分離不安症など		3	8	2
	強迫症群	身体への反復行動症など		1	0	1
	ストレス関連症群	反応性アタッチメント症 脱抑制性対人交流症 心的外傷後ストレス症など		1	1	1
	衝動制御症群など	間欠爆発症、反抗挑発症など		0	0	0
	その他	睡眠障害、遺尿・遺糞症、食行動症 など		1	1	0
その他	染色体、遺伝子の 異常など	ダウン症候群		0	0	0
		その他		0	0	0
	その他	不登校など		0	1	1
合 計				20	115	41

B 診療・療育相談

(1) 外来児の取扱数(診療科別延人数)

(単位:人)

科名	年度	2022年度	2023年度	2024年度
小児科		5,836	6,051	6,420
整形外科		996	796	869
リハビリテーション科		957	966	1,020
耳鼻咽喉科		149	130	148
眼科		0	0	0
児童精神科		555	662	965
合計		8,493	8,605	9,422

(2) 手術件数

(単位:件)

術名	年度	2022年度	2023年度	2024年度
選択的多数筋解離手術		2	3	3
股関節脱臼整復手術		2	0	0
脊柱変形矯正手術		13	10	9
骨切り手術(骨盤・大腿骨)		1	2	2
下肢変形矯正手術		0	1	3
足変形矯正手術(内反足、他)		0	4	2
抜釘手術		4	3	3
その他		3	4	4
合計		25	27	26

(3) ボトックス治療実施件数

(単位:件)

項目	年度	2022年度	2023年度	2024年度
ボトックス治療		47	44	54

(4) 診療科別処方数

(単位:枚)

診療科			年度	2022年度	2023年度	2024年度
外 来	小児科	院内	14	7	1	
		院外	1,738	1,624	1,722	
	整形外科	院内	0	7	0	
		院外	51	33	35	
	リハ科	院内	0	3	4	
		院外	15	7	14	
	耳鼻咽喉科	院内	2	4	1	
		院外	20	23	12	
	児童精神科	院内	0	0	0	
		院外	317	387	527	
	眼科	院内	0	0	0	
		院外	0	0	0	
	外来計	院内	16	21	6	
		院外	2,141	2,074	2,310	
入 所	入所		195	103	120	
合 計	[外来(院内)+入所]		211	124	126	

(5) 診断書・意見書等作成件数

(単位:件)

項目 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
特別児童扶養手当	145	215	250
福祉手当診断書	15	23	21
特別障害者手当	2	4	0
身体障害者手帳	22	19	18
意見書類	473	480	353
合 計	657	741	642

(6) 補装具作成件数(椅子など)

(単位:件)

項目 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
車 椅 子	23	25	41
電 動 車 椅 子	1	3	1
座 位 保 持 装 置	24	9	17
そ の 他	15	13	12
合 計	63	50	71

(7) 補装具作成件数(装具)

(単位:件)

項目 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
短 下 肢 装 具	47	50	62
靴・足底装具	34	45	51
ア ー チ サ ポ ー ト	103	107	71
体 幹 装 具	26	26	31
長 下 肢 装 具	3	2	3
骨盤帯付長下肢装具	3	1	3
股 外 転 装 具	1	1	0
股 脱 治 療 装 具	3	0	3
頭 蓋 矯 正 装 具	5	0	0
そ の 他	57	77	70
合 計	282	309	294

(8) 放射線部位別撮影件数

(単位:件)

撮影部位 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
頭 部	4	0	0
上 顎	0	0	0
ア デ ノ イ ド	0	0	0
胸 部	3	4	7
頸 椎	36	38	37
胸 椎	2	1	1
腰 椎	5	10	13
股 関 節	217	125	137
ラウエンスタイン	46	24	16
上 肢	4	3	3
手 根 骨	82	84	86
大 腿 骨	7	3	6
下 腿 骨	5	2	3
膝 関 節	10	12	7
足 関 節	4	4	6
足 部	48	29	41
全 脊 柱	369	324	381
下 肢 全 長	134	97	102
そ の 他	14	10	9
合 計	990	770	855

(9) 生理検査件数

(単位:件)

検査 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
聴性脳幹反応 (ABR)	2	3	1
心 電 図	47	64	71
脳 波 検 査	16	15	12
屈 折 検 査	15	6	12

(10) 検体検査件数

(単位:件)

項目 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
生 化 学 検 査	1,398	1,388	1,707
血 液 検 査	210	210	236
細 菌 検 査	56	32	27
血 清 検 査	3	0	0
一 般 検 査	23	8	9
病 理 検 査	0	0	0
染色体・遺伝子検査	1	0	0
薬 物 検 査	22	23	28
合 計	1,713	1,661	2,007

(11) 心理判定・心理治療件数 (単位:件)

年度		2022年度	2023年度	2024年度
件数				
新規	数	525	540	701
再来	数	383	511	485
合計		908	1,051	1,186

(12) 心理判定・心理治療の障がい別実人数 (単位:人)

障害区分		年度	2022年度	2023年度	2024年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)、中枢性協調障害		14	0	0
	二分脊椎		0	0	0
	脳血管障害		0	0	0
	その他		0	2	0
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー		0	0	2
	その他		2	2	0
先天性異常・染色体異常など	ダウン症		6	12	6
	その他		3	4	8
小児整形外科疾患	パルテス病		10	0	1
	その他		2	0	0
聴覚障害	難聴		3	0	0
音声機能障害	構音障害		0	1	0
	その他		0	2	0
言語機能障害	言語発達遅滞		1	0	0
神経発達症	神経発達症群	知的発達症	80	88	69
		言語症	80	90	110
		自閉スペクトラム症	261	387	382
		自閉スペクトラム症	263	252	339
		特異的学習症	21	22	19
		発達性協調運動症	4	2	6
		注意欠如多動症	149	164	207
		吃音症、その他の神経発達症	3	2	8
精神神経疾患	不安関連症群	緘黙、社交不安症、分離不安症など	3	19	29
	強迫症群	身体への反復行動症など	1	0	0
	ストレス関連症群	反応性アタッチメント症、脱抑制性対人交流症、心的外傷後ストレス症など	1	1	0
	その他	睡眠障害、遺尿・遺糞症、食行動症など	0	0	0
その他		不登校など	1	1	0
合計			908	1,051	1,186

(13) 心理治療技法別件数

(単位:件)

治療技法	年度	2022年度	2023年度	2024年度
カウンセリング		35	33	77
特別外来(集団)		59	66	93
合計		94	99	170

(14) 種類別心理検査実施件数

(単位:件)

検査内容	年度	2022年度	2023年度	2024年度
発達検査	新版K式	340	363	387
	遠城寺式	5	5	6
	VeinLand=II	5	22	10
知能検査	田中ビネー	11	23	17
	WISC	144	131	145
	その他	0	0	1
性格検査	SCT	0	0	0
	描画テスト	1	2	2
	その他	0	0	0
その他の検査	PARS	261	277	310
	ADHD評価スケール	135	128	135
	その他	2	1	3
合計		904	952	1,016

(15) 医療ソーシャルワーカー相談件数

(単位:件)

内容	年度	2022年度	2023年度	2024年度
インテーク受理		989	971	1,020
要保護・要支援児童対応		33	30	50

(16) 栄養指導延件数

(単位:件)

内容	年度	2022年度		2023年度		2024年度	
		個別	集団	個別	集団	個別	集団
通所施設(つばさ・「オアシス」)		0	0	0	1	0	1
医療型障害児入所施設つくし園		0	0	0	0	0	0
外来		6	0	6	0	7	1
合計		6	0	6	1	7	2

(17) 外来講座実施状況 (2024年度)

(延べ人数)

テーマ	参加保護者	参加支援者
こどもの発達について		
診断(特性)について	116	
はじめにすること(ST・OT)	92	
はじめにすること-2ことば遅れあり(ST・OT)		
園・学校との付き合い方(SW)	81	1
コミュニケーション・理解(視覚的支援)	33	3
コミュニケーション・表出(PECS)	34	6
学童から思春期に大切にしたいこと	11	1
社会性・コミュニケーションについて	13	1
不注意・落ち着きのなさと学習問題について	18	1
構造化について	13	1
二次障がいについて	12	
本人への告知について	15	
年中セミナー	63	
小1セミナー	14	
小3セミナー	69	
LDについて	17	
計	601	14

1テーマにつき複数回ずつ実施している。表はその合計数。

C リハビリテーション（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・音楽療法）

（１）理学療法の障がい別実施件数（延）

a. 外 来

（単位：件）

障害区分		年度	2022年度	2023年度	2024年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		1,731	1,631	1604
	二分脊椎		215	248	191
	脳血管障害		58	53	39
	脳炎・脳症		180	163	181
	その他		331	333	289
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー		146	200	227
	その他		111	106	54
先天性異常・染色体異常など	ダウン症		247	279	231
	その他		479	431	532
原因不明の運動の遅れ			462	576	642
骨系統疾患		骨系統疾患	5	12	49
小児整形外科疾患	子宮内圧迫症候群		0	0	0
	先天性内反足・内転足など		73	105	119
	乳児股関節脱臼・亜脱臼		25	61	50
	発育期特有の下肢変形、歩容異常		29	28	48
	脊柱変形		57	13	38
	ペルテス病		3	21	12
	筋骨格外傷および後遺症		39	24	21
	その他		64	37	36
神経発達症	神経発達症群	自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)	26	14	50
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞なし)	82	128	202
		発達性協調運動症	73	107	107
そ の 他		不登校など	0	0	0
合 計			4,436	4,570	4,722

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

（単位：件）

障害区分		年度	2022年度	2023年度	2024年度
中枢神経 （脳・脊髄）疾患	脳性麻痺（疑い含む）中枢性協調障害		178	258	229
	二分脊椎		0	0	39
	脳炎・脳症		10	0	0
抹消神経・筋疾患	その他		20	29	0
骨系統疾患		骨系統疾患	0	68	57
小児整形外科疾患	乳児股関節脱臼・亜脱臼		475	39	29
	ペルテス病		212	0	0
合 計			895	394	354

(2) 理学療法の年齢別実施人数 (実数)

a. 外 来

(単位:人)

年齢 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
0 歳	20	22	29
1 歳	49	45	49
2 歳	20	34	29
3 歳	19	23	20
4 歳	19	19	31
5 歳	17	20	22
6~12歳	89	96	106
13~17歳	43	39	51
18歳以上	22	17	6
合 計	298	315	343

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:人)

年齢 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
0 歳	0	0	0
1 歳	0	0	0
2 歳	2	0	0
3 歳	0	0	0
4 歳	1	1	2
5 歳	1	4	1
6~12歳	3	3	4
13歳以上	4	2	1
合 計	11	10	8

(3) 作業療法の障がい別実施件数 (延)

a. 外 来

(単位:件)

障害区分		年度	2022年度	2023年度	2024年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		374	391	294
	二分脊椎		86	43	54
	脳血管障害		15	18	71
	脳炎・脳症		21	25	49
	その他		85	59	68
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー・その他		24	37	46
先天性異常 染色体異常など	ダウン症		141	160	97
	その他		153	114	119
原因不明の運動の遅れ			204	155	53
骨系統疾患		骨系統疾患	15	0	0
小児整形外科疾患	先天性内反足・内転足など		0	0	0
	筋骨格外傷および後遺症		19	3	0
	その他		2	0	67
神経発達症	神経発達症群	知的発達症	87	106	199
		言語症	189	154	32
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)	1,449	1,172	655
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞なし)	399	434	495
		特異的学習症	12	12	18
		発達性協調運動症	132	167	39
		注意欠如多動症	48	32	13
		吃音症、その他の神経発達症	0	1	23
精神神経疾患	不安関連症群	緘黙、社交不安症、分離不安症など	15	30	1
合 計			3,470	3,113	2,393

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:件)

障害区分		年度	2022年度	2023年度	2024年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患		脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害	2	23	0
		二分脊椎	0	0	20
小児整形外科疾患		その他	1	0	88
神経発達症	神経発達症群	特異的学習症	0	0	0
		発達性協調運動症	1	0	11
	合 計		4	23	119

(4) 作業療法の年齢別実施人数 (実数)

a. 外 来

(単位:人)

年齢 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
0 歳	0	0	0
1 歳	10	15	9
2 歳	59	84	75
3 歳	101	94	118
4 歳	114	96	110
5 歳	106	95	103
6~12歳	67	75	80
13~17歳	9	9	6
18歳以上	3	3	3
合 計	469	471	504

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:人)

年齢 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
0 歳	1	0	3
1 歳	0	0	0
2 歳	1	0	0
3 歳	0	0	0
4 歳	0	1	0
5 歳	1	1	0
6~12歳	0	0	1
13歳以上	1	0	0
合 計	4	2	4

(5) 言語聴覚療法の障がい別実施件数 (延)

a. 外 来

(単位: 件)

障害区分		年度	2022年度	2023年度	2024年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		76	67	62
	二分脊椎		0	0	0
	脳血管障害		54	92	30
	脳炎・脳症		50	34	9
	その他		96	53	113
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー		0	3	9
	その他		1	5	0
先天性異常・染色体異常 など	ダウン症		233	224	212
	その他		226	79	263
原因不明の運動の遅れ			87	41	9
小児整形外科疾患	その他		5	0	0
聴覚障害	難聴		146	189	267
音声機能障害	構音障害		364	287	355
神経発達症	神経発達症群	知的発達症	106	127	125
	神経発達症群	言語症	1,547	1,780	1,384
		自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)	2,134	2,091	2,637
	神経発達症群	自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞なし)	178	158	146
		特異的学習症	77	47	44
	神経発達症群	注意欠如多動症	58	27	39
		吃音症、その他の神経発達症	71	52	60
精神神経疾患	不安関連症群	緘黙、社交不安症、分離不安症など	2	17	23
	合 計		5,511	5,373	5,787

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位: 件)

障害区分		年度	2022年度	2023年度	2024年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害		1	0	0
	脳血管障害		1	0	0
先天性異常など	その他、末梢神経疾患		0	0	0
小児整形外科疾患	ペルテス病		0	0	0
神経発達症	神経発達症群	知的発達症	0	0	4
	合 計		2	0	4

(6) 言語聴覚療法の年齢別実施人数 (実数)

a. 外 来

(単位:人)

年齢 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
0 歳	1	2	2
1 歳	14	20	31
2 歳	67	70	104
3 歳	164	200	191
4 歳	210	217	209
5 歳	208	167	212
6~12歳	185	152	165
13~17歳	5	4	4
18歳以上	1	5	3
合 計	855	837	921

b. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:人)

年齢 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
0 歳	0	0	0
1 歳	0	0	0
2 歳	0	0	0
3 歳	0	0	1
4 歳	0	0	0
5 歳	1	0	0
6~12歳	1	0	0
13歳以上	0	0	0
合 計	2	0	1

(7) 音楽療法の障がい別実施件数(延)

a. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:件)

障害区分			年度	2022年度	2023年度	2024年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害			89	126	46
	二分脊椎			0	0	12
	脳血管障害			3	0	1
	脳炎・脳症			0	1	0
	その他			8	6	4
先天性異常・染色体異常 など		その他		0	11	1
小児整形外科疾患	乳児股関節脱臼・亜脱臼			34	22	9
	ペルテス病			32	0	0
	その他			35	11	0
神経 発達 症	神経発達症群	知的発達症		43	72	11
合 計				244	249	84

b. 児童発達支援センター つばさ

(単位:件)

障害区分			年度	2022年度	2023年度	2024年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害			30	18	2
	脳炎・脳症			40	0	0
	その他			0	17	0
先天性異常・染色体異常 など		ダウン症		0	46	0
		その他		40	84	4
原因不明の運動の遅れ				46	17	0
神経 発達 症	神経発達症群	自閉スペクトラム症 (言語発達遅滞あり)		199	197	21
合 計				355	379	27

c. 生活介護事業所「オアシス」

(単位:件)

障害区分			年度	2022年度	2023年度	2024年度
中枢神経 (脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)中枢性協調障害			181	183	22
	脳炎・脳症			11	11	1
	その他			74	72	10
先天性異常・染色体異常 など		その他		50	31	2
合 計				316	297	35

(8) 音楽療法の年齢別実施人数 (実数)

a. 医療型障害児入所施設 つくし園

(単位:人)

年齢 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
0 歳	0	0	0
1 歳	0	0	0
2 歳	2	0	0
3 歳	0	0	0
4 歳	0	1	2
5 歳	2	6	1
6~12歳	3	5	2
13歳以上	11	19	1
合 計	18	31	6

b. 児童発達支援センター つばさ

(単位:人)

年齢 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
0 歳	0	0	0
1 歳	4	3	1
2 歳	17	14	8
3 歳	13	17	7
4 歳	9	4	1
5 歳	2	2	0
6 歳	0	0	0
合 計	45	40	17

c. 生活介護事業所「オアシス」

(単位:人)

年齢 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
18~20歳	5	4	1
21~30歳	11	12	10
30歳以上	8	6	6
合 計	24	22	17

2 福祉施設部門

A 医療型障害児入所施設 つくし園

(1) 月別在籍数(初日現在)

(単位:人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	5	5	4	5	7	5	6	5	5	4	3	4
2023年度	3	3	2	2	2	3	3	1	2	3	2	2
2024年度	3	5	4	4	1	2	2	2	3	2	2	2

(2) 障がい別集計 ※短期入所児は除く

(単位:人)

障害の区分		年度	2022年度	2023年度	2024年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む) 中枢性協調障害		3	4	4
	二分脊椎		0	1	1
	脳血管障害		1	0	0
	その他		2	0	1
末梢神経疾患	その他		0	0	0
小児整形外科疾患	乳児股関節脱臼・亜脱臼		3	2	3
	ペルテス病		2	0	0
	その他		1	1	1
神経発達症	神経発達症群	知的発達症	1	1	1
合 計			13	9	11

(3) 年齢別集計(入所時)

(単位:人)

年齢 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
0 歳	2	0	3
1 歳	0	0	0
2 歳	2	0	0
3 歳	0	0	0
4 歳	1	2	2
5 歳	1	3	0
6~12歳	3	2	5
13~17歳	4	2	1
合 計	13	9	11

(4) 住所別集計

(単位:人)

住所 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
福 井 市	7	6	6
永 平 寺 町	0	1	0
坂 井 市	0	0	0
鯖 江 市	3	0	0
あ わ ら 市	1	0	0
越 前 市	0	0	1
越 前 町	1	0	0
大 野 市	1	0	1
南 越 前 町	0	0	1
敦 賀 市	0	2	2
合 計	13	9	11

・表の住所:こども療育センターから直線距離で近い順

(5) 進路別集計 (退所時)

(単位:人)

進路 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
特 別 支 援 学 校	1	3	2
特 別 支 援 学 級	1	0	0
高 校	0	0	0
中 学 校	1	0	0
小 学 校	1	1	1
幼 稚 園 ・ 保 育 所	2	5	3
他 の 福 祉 施 設	1	0	1
在 宅	3	0	3
転 院	0	0	0
死 亡	0	0	0
合 計	10	9	10

(6) 在籍期間別集計 (退所時)

(単位:人)

期間 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
3 ヶ 月 未 満	6	7	8
6 ヶ 月 未 満	0	1	1
1 年 未 満	2	0	1
2 年 未 満	0	0	0
3 年 未 満	1	0	0
3 年 以 上	1	1	0
合 計	10	9	10

(7) 重複症状別人数

知的障害 の程度	IQ	動作能力の 制限	走れる	歩ける	歩行障害	座れる	寝たきり
		年度					
なし	86以上	2022年度	0	1	0	0	0
		2023年度	2	0	1	0	0
		2024年度	0	1	0	0	0
境界域	76～85	2022年度	0	0	0	1	0
		2023年度	0	0	0	0	1
		2024年度	0	0	0	0	0
軽度	51～75	2022年度	2	1	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	3	0	0
中度	36～50	2022年度	0	0	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	0	1	0
重度	21～35	2022年度	0	0	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	0	0	1
最重度	20以下	2022年度	0	0	0	1	1
		2023年度	0	0	0	0	3
		2024年度	0	0	0	1	1

・重症心身障害: “重度から最重度”の知的障害と“寝たきり”もしくは“座れる”レベルの
動作能力の制限とを併せ持つ状態(大島分類)

・上記集計には、パーテス病・股関節脱臼は含まない

B 児童発達支援センター つばさ

(1) 月別在籍数 (初日現在)

(単位:人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	22	25	26	27	32	35	38	39	40	40	39	41
2023年度	23	28	32	33	35	37	36	34	34	29	29	29
2024年度	15	17	15	16	18	18	16	17	21	20	23	23

(2) 障がい別集計

(単位:人)

障害の区分		年度	2022年度	2023年度	2024年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む) 中枢性協調障害		2	2	1
	二分脊椎		0	0	0
	脳血管障害		0	0	0
	脳炎・脳症		4	0	0
	その他		1	0	0
(末梢)神経・筋疾患	筋ジストロフィー		0	1	1
	その他		0	0	0
先天性異常・染色体異常 など	ダウン症		0	3	0
	その他		6	6	3
原因不明の運動の遅れ			4	0	1
骨系統疾患	骨系統疾患		0	0	0
小児整形外科疾患	子宮内圧迫症候群		0	0	0
	斜頸		0	0	0
	先天性内反足・内転足など		0	0	0
	乳児股関節脱臼・亜脱臼		0	0	0
	発達期に特有の下肢変形 (O脚・X脚)		0	0	0
	脊椎変形		0	0	0
	ペルテス病		0	0	0
	外骨格外傷および後遺症		0	0	0
	その他		0	0	0
神経発達症候群	自閉症スペクトラム (言語発達遅延あり)		30	28	25
	自閉症スペクトラム (言語発達遅延なし)		0	0	0
	発達性学習症		0	0	0
	発達性協調運動症		0	0	0
	チック症、トゥレット症候群		0	0	0
	注意欠陥多動性症		0	0	0
	その他神経発達症		0	0	0
合計			47	40	31

(3) 年齢別集計 (通所開始時)

(単位:人)

年齢 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
0 歳	0	0	0
1 歳	8	4	2
2 歳	16	18	13
3 歳	16	14	14
4 歳	5	2	2
5 歳	2	2	0
6 歳	0	0	0
合 計	47	40	31

(4) 住所別集計

(単位:人)

住所 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
福 井 市	21	21	18
坂 井 市	7	3	5
鯖 江 市	3	4	4
あわら市	1	2	2
越 前 市	9	5	1
越 前 町	0	2	0
勝 山 市	0	0	0
大 野 市	1	1	0
南越前町	3	0	0
永平寺町	1	1	1
美 浜 町	1	1	0
合 計	47	71	31

・表の住所:こども療育センターから直線距離で近い順

(5) 進路別集計 (退所時)

(単位:人)

進路 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
児 童 福 祉 施 設	0	0	1
特 別 支 援 学 校	2	2	0
特 別 支 援 校 (盲 ・ ろ う) 学 校 (幼 稚 部 含 む)	2	0	0
小 学 校	0	0	0
幼 稚 園 ・ 保 育 所	18	23	15
在 宅 (未 就 学 ・ 未 就 園)	2	0	0
そ の 他	0	0	0
合 計	24	25	16

(6) 在籍期間別集計 (退所時)

(単位:人)

期間 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
3ヶ月未満	0	0	1
6ヶ月未満	0	0	1
1年未満	5	7	6
2年未満	13	18	6
3年未満	2	0	3
3年以上	4	0	0
合計	24	25	17

(7) 重複症状別人数

(単位:人)

知的障害の程度	IQ	動作能力の制限 \ 年度	走れる	歩ける	歩行障害	座れる	寝たきり
なし	86以上	2022年度	0	0	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	0	0	0
境界域	76～85	2022年度	6	0	0	0	0
		2023年度	7	0	0	0	0
		2024年度	8	0	0	0	0
軽度	51～75	2022年度	21	1	1	0	1
		2023年度	21	2	0	2	1
		2024年度	14	0	1	1	0
中度	36～50	2022年度	4	3	1	1	1
		2023年度	1	4	0	0	1
		2024年度	4	1	0	0	1
重度	21～35	2022年度	0	0	1	1	3
		2023年度	0	0	0	1	0
		2024年度	0	0	1	0	0
最重度	20以下	2022年度	0	0	0	0	2
		2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	0	0	0

・重症心身障害: “重度から最重度”の知的障害と“寝たきり”もしくは“座れる”レベルの動作能力の制限とを併せ持つ状態(大島分類)

・2023年4月以前に入園した児は2023年4月1日付の状況、年度途中に入園した児は入園時の状況

(8) 水治療室利用件数

(単位:件)

年度 \ 月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	児	10	14	26	27	26	32	25	21	8	22	27	22	260
	保護者	10	14	26	27	26	32	25	21	8	22	27	22	260
2023年度	児	13	14	24	26	28	30	15	13	12	0	14	0	189
	保護者	13	14	24	26	28	30	15	13	12	0	14	0	189
2024年度	児	0	0	0	16	17	8	8	8	7	20	13	13	110
	保護者	0	0	0	16	18	8	8	8	7	20	13	13	111

C 生活介護事業所「オアシス」

(1) 月別在籍数(初日現在)

(単位:人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	23	24	24	24	24	24	24	24	24	23	22	22
2023年度	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
2024年度	18	18	18	18	18	18	18	17	16	16	16	16

(2) 月別利用者延べ人数

(単位:人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	114	109	129	110	108	111	110	117	113	100	108	125	1,354
2023年度	106	104	121	106	117	107	108	103	105	100	98	106	1,281
2024年度	95	93	86	90	84	74	100	84	76	70	69	63	984

(3) 障がい別集計

(単位:人)

障害区分		年度	2022年度	2023年度	2024年度
中枢神経(脳・脊髄)疾患	脳性麻痺(疑い含む)、 中枢性協調障害		13	12	10
	脳血管障害		0	0	0
	脳炎・脳症		1	1	1
	その他		6	5	5
先天性異常・染色体異常 など	ダウン症		0	0	0
	その他		3	3	2
合 計			23	21	18

(4) 年齢別集計 (年度開始時)

(単位:人)

年齢 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
18~20歳	5	3	1
21~30歳	11	12	12
31歳以上	7	6	5
合 計	23	21	18

(5) 住所別集計

(単位:人)

住所	年度	2022年度	2023年度	2024年度
福井市		14	14	12
坂井市		7	6	5
鯖江市		2	1	1
合計		23	21	18

・表の住所:こども療育センターから直線距離で近い順

(6) 入浴利用者延べ人数

(単位:人)

年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度		71	68	76	62	65	66	68	73	67	61	60	68	805
2023年度		71	74	85	74	83	75	75	72	72	69	69	72	891
2024年度		67	63	56	63	61	0	0	0	0	0	0	0	310

※9～3月は浴槽工事のため入浴は休止。

(7) バス通所利用者数延べ人数

(単位:人)

年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度		61	58	64	37	55	53	59	62	56	48	58	66	677
2023年度		51	48	63	54	57	53	54	52	54	49	54	53	642
2024年度		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※運転手不足で受託施設が見つからず、2024年度からはバス運行を終了。

(8) 重複症状別人数

(単位:人)

知的障害の程度	IQ	動作能力の制限 年度	走れる	歩ける	歩行障害	座れる	寝たきり
軽度	51～75	2022年度	0	0	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	0	0	0
中度	36～50	2022年度	0	0	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	0	0	0
重度	21～35	2022年度	0	0	0	0	6
		2023年度	0	0	0	0	4
		2024年度	0	0	0	0	3
最重度	20以下	2022年度	0	0	0	5	13
		2023年度	0	0	0	5	13
		2024年度	0	0	0	4	14

・重症心身障害:“重度から最重度”の知的障害と“寝たきり”もしくは“座れる”レベルの動作能力の制限とを併せ持つ状態(大島分類)

D 短期入所

(1) 利用件数

(単位:人)

年 度	2022年度		2023年度		2024年度	
	実人員	延人数 (日帰り)	実人員	延人数 (日帰り)	実人員	延人数 (日帰り)
合 計	48	1,649 (257)	45	1,594 (306)	49	1,399 (204)

・()は内数

(2) 重複症状別人数

(単位:人)

知的障害 の程度	IQ	動作能力の 制限 年度	走れる	歩ける	歩行障害	座れる	寝たきり
なし	86以上	2022年度	0	0	0	0	1
		2023年度	0	0	0	0	2
		2024年度	0	0	0	0	2
境界域	76～85	2022年度	0	0	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	1
		2024年度	0	0	0	0	1
軽度	51～75	2022年度	0	0	0	1	0
		2023年度	0	0	0	1	0
		2024年度	0	0	0	1	0
中度	36～50	2022年度	0	0	0	0	0
		2023年度	0	0	0	0	0
		2024年度	0	0	0	0	0
重度	21～35	2022年度	0	1	0	0	3
		2023年度	0	1	0	0	3
		2024年度	0	1	0	0	4
最重度	20以下	2022年度	0	0	1	7	34
		2023年度	0	0	1	6	29
		2024年度	0	0	2	6	33

・重症心身障害:“重度から最重度”の知的障害と“寝たきり”もしくは“座れる”レベルの動作能力の制限とを併せ持つ状態(大島分類)

3 地域支援活動

A 療育研修会

(単位:人)

事業 \ 年度	2022年度	2023年度	2024年度
開催数	3	2	2
参加者	200	209	114

2024年度療育研修会 内容

第1回 2024年7月27日(土) 10:00-16:30

テーマ

『生活の中の作業療法～感覚統合を視点にした保育士と作業療法士の協働～』

<第1部> 講演

『こどもの行動理解と支援につながる感覚統合の基礎知識』

奈良県総合リハビリテーションセンター 作業療法士 中井 菜摘先生

<第2部> 講演

『感覚統合と保育～感覚統合の視点を取り入れて～』

あいのそのこども園 園長 大久保 めぐみ先生

<第3部> 事例紹介・グループワーク

『体と心が育つ楽しい運動遊び』

あいのそのこども園 保育教諭 川島 若葉先生

奈良県総合リハビリテーションセンター 作業療法士 中井 菜摘先生

第2回 2024年10月 26 日(土) 13:30-16:30

テーマ

『生活の中の作業療法～保育士と作業療法士の協働～』

<第1部> 講演

『作業療法士の視点を取り入れた保育に』

福井市立松本保育園 保育士 谷口 晴衣先生

『生活の中の作業療法～保育士と作業療法士の協働～』

フリーランス 作業療法士 山本 恵子先生

<第2部> グループワーク

『みんながすごしやすい環境ってなんだろう』

B 療育支援活動（2024年度）

（１）診療科別実施状況

a.小児科・児童精神科

派遣場所	対象・業務内容など	回数	内容分類				
			個別 相談	保護者 支援	職員 支援	検診	会議 講義
オンライン	福井県教育相談ネットワーク会議	1			○		○
オンライン	福井県発達障がい協議会	1					○
オンライン 社会福祉センター	保育士キャリアアップ研修会	2			○		○
県庁会議室	保育カンファレンス研修会 (こども家庭課)	2			○		○
美浜子育て支援センター	美浜町体制検討会	2				○	
福井県国際交流会館	福井県周産期医療協議会	1					○
福井県こども療育センター(オンライン含)	福井市自立支援協議会こども部会	10					○
福井県こども療育センター(オンライン含)	福井県小児医療体制会議	1					○
福井県こども療育センター	小児療育担当職員等実務研修事前研修会	1			○		○
福井県こども療育センター	福井県障がい福祉課連絡会議	1					○
福井県特別支援教育センター	福井県特別支援教育センター連絡会議	2					○
福井県特別支援教育センター	令和5年度医療的ケア特定行為従事者(教員)研修	1			○		○
福井県特別支援教育センター、福井市きらら館、中藤小学校	福井市教育支援委員会	7				○	
福井県立看護専門学校	小児看護学講義	1					○
福井県社会福祉協議会	保育士等キャリアアップ研修事業	2					○
福井市中央卸売市場	福井市発達相談会	1	○				
福井市役所	福井県虐待防止検討委員会 (社会福祉協議会)	1					○
福井市役所	福井市特別支援教育専門委員会・地区別連絡会議	7					○
越前市児童発達支援センターなないろ	越前市療育研修会	1					○
越前市アルプラザ	越前市療育体制会議	4					○
福井県立盲学校	ケース会議	1	○				○

a.小児科・児童精神科(続き)

派遣場所	対象・業務内容など	回数	内容分類				
			個別 相談	保護者 支援	職員 支援	検診	会議 講義
和敬学園	ケース会議	1	○				○
福井市役所、福井市きらら館、オンライン	令和5年度福井市特別支援教育専門委員会	4			○		○
坂井市春江保健センター	令和5年度母子保健関係職員勉強会	1			○		○
美浜町健康福祉センターはあとびあ、福井県立図書館	すみずみ子育てサポート研修会	2					○
結とびあ	奥越自立支援協議会	1					○
坂井市役所	坂井地区発達障がい児支援研修	2					○

b.整形外科

派遣場所	対象・業務内容など	回数	内容分類					
			個別 相談	保護者 支援	職員 支援	検診	会議 講義	診療
市立敦賀病院 小児整形外科相談外来	嶺南地区の児童	6						○

c.耳鼻咽喉科

派遣場所	対象・業務内容など	回数	内容分類				
			個別 相談	保護者 支援	職員 支援	検診	会議 講義
特別教育支援センター	特別支援学校入学児の判定	2					○
盲学校	耳鼻科検診	1				○	

d.リハビリテーション室(ST)・地域支援課(ST)・耳鼻咽喉科

事業名	参加職種	回数
難聴児支援体制指導員派遣事業連絡会	聾学校、光道園、児童発達支援センター・事業所、障がい福祉課	3

(2) 地域支援課実施状況

事業名	受講状況	内容分類				
		個別 相談	保護者 支援	職員 支援	健診	会議 講義
小児療育担当職員等実務研修 (1週間コース)	5クール 13名			○		
小児療育担当職員等実務研修 (ペアプロコース)	3クール 8名			○		
ペアレント・プログラム	22名		○			
子育て講座	18回 111名		○	○		
出張講座「ほめるコツ ～ペアレント・プログラムのエッセ ンス～」	2校 (学校)			○		
	4施設 (児発・放デイ)			○		
出前講座「リハシル」	4園 (保育所)			○		
	3施設 (児発・放デイ)			○		
R5年度すみずみ子育てサポート 事業研修会	2回 (47名)			○		

(3) 特別支援学校リハビリ相談事業～リハイク～実施状況

a. 特別支援学校(特別支援学校リハビリ相談事業～リハイク～)

相談(延べ人数)

学校名	申込 件数	PT	OT	ST	心理
奥越特別支援学校	8	5	12	8	0
清水特別支援学校	5	1	8	7	0
南越特別支援学校	14	3	26	27	1
福井特別支援学校	0	0	0	0	0
福井南特別支援学校	7	0	7	14	0
福井東特別支援学校	1	0	2	0	0
福井大学教育地域科学 部附属特別支援学校	1	2	0	1	0
盲学校	1	1	1	2	0
嶺南西特別支援学校	0	0	0	0	0
嶺南東特別支援学校	7	0	11	9	1
嶺北特別支援学校	10	3	15	20	0
ろう学校	0	0	0	0	0
計	54	15	82	89	2

相談(延べ人数)

支援内容	PT	OT	ST	心理
姿勢	4	9	0	0
運動	8	0	0	0
呼吸	0	0	0	0
生活動作	0	18	0	0
学習・作業	0	12	0	0
言語理解	0	0	5	0
言語表出	0	0	15	0
構音	0	0	14	0
摂食	0	0	7	0
課題整理	0	0	0	0
計	12	39	41	0

C. 嶺南地域療育機能強化支援事業（2024年度）

a. 医療機関

派遣場所		職種	回数	件数		内容分類				
				診療	相談	個別相談	保護者支援	職員支援	会議	診療
地域療育拠点委託医療機関	杉田玄白記念 公立小浜病院	理学療法士	0	0	0	○	○	○		
		作業療法士	1	0	2	○	○	○		
		言語聴覚士	39	30	22	○	○	○	○	○
		公認心理師	53	58	0	○	○	○	○	○
	市立敦賀病院	理学療法士	2	3	3	○	○	○		
		作業療法士	3	6	3	○	○	○		
		言語聴覚士	11	13	29	○	○	○	○	

b. 児童発達支援センター

派遣場所		職種	回数 (学習会)	件数	内容分類				
					個別相談	保護者支援	職員支援	会議	診療
地域療育拠点委託事業所	敦賀市立 子ども発達支援センター パラレル	理学療法士	0	0	○	○	○		
		言語聴覚士	5(2)	32	○	○	○		
		公認心理師	3(3)	26	○	○	○		
	小浜市 母と子の家 児童発達支援センター CokoUta	理学療法士	0	0	○	○	○		
		言語聴覚士	25(8)	127	○	○	○	○	
		公認心理師	24(8)	96	○	○	○	○	

c. 市町

派遣先・事業内容など		職種	回数 (学習会)	件数	内容分類				
					個別相談	保護者支援	職員支援	会議	診療
敦賀市	乳幼児健診後 経過観察教室	言語聴覚士	5(5)	22	○	○	○	○	
	発達支援教室	言語聴覚士	6	25	○	○	○	○	
	保育士研修会	言語聴覚士 公認心理師	1(1)	20			○	○	
	子育て講座	言語聴覚士 公認心理師	1(1)	15	○	○	○		
	保育士等 研修会	公認心理師 言語聴覚士	1(1)	35			○	○	

c. 市町（続き）

派遣先・事業内容など		職種	回数 (学習会)	件数	内容分類				
					個別 相談	保護者 支援	職員 支援	会議	診療
小浜市	乳幼児健診後経過観察教室 (すまいる)	療法士 公認心理師	11(7)	131	○	○	○	○	
	保育士会年齢別 研究会	公認心理師 言語聴覚士	2(2)	20			○	○	
	子育て相談会	公認心理師	1(1)	5	○	○	○		
美浜町	子育て支援セン ター 育児講座	公認心理師 言語聴覚士 作業療法士	2(2)	19	○	○	○	○	
	2歳児育児教室	言語聴覚士	3(3)	28	○	○	○	○	
若狭町	2歳児育児教室	公認心理師	12(12)	76	○	○	○	○	
	子育て支援セン ター 育児講座 (すくすく広場)	公認心理師	1	5	○	○	○	○	
	発達支援学習会	公認心理師 言語聴覚士 作業療法士	3(3)	41			○	○	
おおい町	乳幼児健診後経過観察教室 (はぐはぐ)	公認心理師 言語聴覚士	12(5)	28	○	○	○	○	
	親子遊びの教室 ぐんぐん	公認心理師 言語聴覚士	10	41	○	○	○	○	
高浜町	乳幼児健診後経過観察教室 (すくすく教室)	公認心理師 言語聴覚士	11	54	○	○	○	○	
	乳幼児健診後経過観察教室(さ んさん教室)	公認心理師	4	10	○	○	○	○	
	子育て支援セン ター 育児講座 (こといくひろ ば)	言語聴覚士	1(1)	10	○	○	○		

D 子育て講座実施状況（2024年度）

テーマ	(延べ人数)	
	参加保護者	参加支援者
子育てのコツと工夫	37	9
ほめるコツ～ペアレント・プログラムのエッセンス～	18	4
生活動作のコツ	4	3
ことばの育ちとコミュニケーション	26	6
ストレスセルフケアについて	1	3
計	86	25

*1テーマにつき複数回ずつ実施している。表はその合計数。

4 その他の活動

A ボランティア活動

(1) ボランティアの受入状況 (延人数) (単位:人)

年度		2022年度	2023年度	2024年度
ボランティア				
団	体	0	22	19
個	人	0	0	16

B 実習・見学

(1) 実習生研修状況 (単位:人)

年度		2022年度	2023年度	2024年度
研修				
保 育	実 人 員	6	4	4
	延 人 数	56	40	20
作 業 療 法	実 人 員	0	1	0
	延 人 数	0	43	0
理 学 療 法	実 人 員	0	0	0
	延 人 数	0	0	0
言 語 聴 覚 療 法	実 人 員	0	0	7
	延 人 数	0	0	7
心 理	実 人 員	2	2	2
	延 人 数	2	16	2
看 護	実 人 員	51	42	17
	延 人 数	51	48	17
医 師	実 人 員	3	4	0
	延 人 数	3	4	0

(2) 施設見学・視察受入状況

年度		2022年度	2023年度	2024年度
視察・見学				
件	数	16	142	116
人	数	25	184	153

C 水治療室の利用者別実施人数 (延)

(単位:人)

年度		2022年度	2023年度	2024年度
部門				
理 学 療 法		454	492	568
児童発達支援センター つばさ		520	278	221
福井東特別支援学校		142	118	89
合 計		1,116	888	878

Ⅲ 研究業績

1 学会発表

・猪島 知佳(保育士)

年月日	2024 年 11 月 22 日
場 所	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
名 称	令和 6 年度東海・北陸・近畿ブロック肢体不自由児療育研究会
タイトル	入所幼児の QOL の向上への取り組みー保育士・看護師の連携を通してー
要 旨	子どもにとって年齢・発達・障がいに合わせて遊びや学び、関わりをすることが重要である中、つくし園では手術後、リハビリ目的の入所児の割合が多く、医療行為やリハビリが優先され、遊びや学びの機会が少なくなっている現状にある。看護師からも、幼児との関わり方や、どうやって遊んでよいかわからないといった声が多く聞かれた。児の興味や好きなことを発達段階と合わせて理解し、普段の生活や遊びの中で取り入れることで、幼児は、統一された関わりの中で、安定して過ごすことができるのではないかと考え、幼児の遊びに焦点を当て、看護師の意識や関わりの変化について研究を実施し、結果を発表した。研究の結果、保育士と看護師で情報共有することで、看護師の幼児への関わりへの不安感がうすれ、積極的に幼児と関わる様子が見られた。今後も、保育士・看護師の専門性を発揮しながら、利用者が充実した生活を送ることができるよう努めたい。

・土田久美子(言語聴覚士)、栗原恵(作業療法士)、西村真衣(言語聴覚士)、中屋美紀(公認心理師、臨床心理士)、山崎千尋(地域支援課長)、津田明美(こども療育センター所長)

年月日	2025 年 2 月 5 日
場 所	福井県特別支援教育センター
名 称	実践研究発表会
タイトル	こども療育センター地域支援課 地域支援グループ活動報告 ～こどもの理解や支援にリハビリテーションの視点を活用してもらうことを目指して～
要 旨	特別支援学校リハビリ相談事業(リハイク)と出前講座(リハシル)について報告した。 リハイクは特別支援学校の教員が教育的ニーズの整理と指導を考える際にリハビリの視点を活用してもらうことを目的としている。現在は担当者ごとの個別事例を通じた相談であるが、より多くの先生方との内容の共有が必要であると感じている。今後その方法を検討していきたい。 リハシルは、現場の状況を知り、リハビリの視点を伝え支援に活用してもらうことを目的とし、申込先に出向き現状に合わせた講座を実施している。近年、福祉分野で働くリハビリ職は増えており、福祉や教育現場ではリハビリの視点がより身近になると思われる。福祉や教育とのより良い連携のために、リハシルを通してお互いの理解を深められたらと考える。 これら二つの取り組みは、より広い視点で育ちや支援を捉えるため、グループ所属の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士が複数で関わっている。多様なニーズを持つこどもたちの支援者を支える伴走型支援として、今後も多種職による地域に寄り添った活動を展開していきたい。

・小林 拓美(理学療法士)

年月日	2025 年 2 月 11 日
場 所	福井大学附属病院臨床教育研究センター2 階白翁会ホール
名 称	第 74 回福井県小児保健協会学術集会
タイトル	当院のダウン症集団外来(こあら外来)の取り組みについて
要 旨	当院では、2023 年春からダウン症とその家族の方を対象に集団外来「こあら外来」を開設した。乳幼児期のダウン症児への発達の促しや関わりについての情報提供、保護者同士のつながりをもつことによる家族支援を主たる目的としている。月に 1 回、理学療法士、保育士、医師を中心とした多職種で実施し、今までに 11 名の乳幼児が参加した。 参加家族に行ったアンケートでは、こあら外来が、子育ての手がかりとなり、不安の軽減につながっているとの結果になった。また、遊びや摂食など、より日常的な情報提供が役に立っていることもわかった。さらに、育児不安の内容は知的発達や就学就労など、ダウン症の特性を主とした、より具体的な不安が残りやすいことが示された。 今後も、こあら外来が情報共有や家族交流の場となり、育児不安の軽減に役立てるよう、多職種の専門性を活かし、ニーズに応じた家族支援を行っていきたいと考える。

・栗原 恵(作業療法士)、土田 久美子(言語聴覚士)、西村 真衣(言語聴覚士)、中屋 美紀(公認心理師・臨床心理士)、山崎 千尋(地域支援課長)、津田 明美(こども療育センター所長)

年月日	2025 年 2 月 11 日
場 所	福井大学附属病院臨床教育研究センター2 階白翁会ホール
名 称	第 74 回福井県小児保健協会学術集会
タイトル	こども療育センター地域支援課 地域支援グループ活動報告 ～リハイク・リハシルの取り組み～
要 旨	地域支援グループでは、県内の特別支援学校の教員を対象としたリハビリ相談事業「リハイク」や、園・学校・事業所等の支援者を対象に出前講座「リハシル」を実施している。 子どもの育ちを支える特別支援学校や地域の現場で、子どもの行動理解を深め支援を考える際に、リハビリテーションの視点を活用してもらうことを目的としている。 どちらの事業も多職種で重層的な支援を行い、それぞれの専門性を持ち寄り多角的な視点で子どもを捉えることで、より深く子どもを理解し、育ちをサポートできるのではないかと考える。また、実際に現場に出向くことで、子どもが過ごす環境や支援者の思いを知り、より現場に即した伴走型支援が可能になるのではないかと考える。 今後も地域支援グループでは、リハイク・リハシルのより良い方法を模索し、リハ職や心理士のもつ視点を伝えるとともに、園や教育、福祉の現場への理解をより一層深めたい。そして、子どもたちを取り巻く地域の支援者とともに、活動を展開していきたい。

2 講演

・津田 明美(医師)

年月日	2024年6月8日
場 所	大宮ソニックシティ
名 称	第35回日本小児科医会総会フォーラム
タイトル	福井県小児科医会子どものこころ医療委員会の地域支援体制支援の試み
要 旨	福井県小児科医会子どものこころ医療委員会(当センター小児科医師はメンバー)の取り組みについて発表した。市町単位の支援者研修を小児科医会メンバーと市町の教育・福祉(障害、保育、母子保健)と協働してシリーズで開催。講義と多職種でのグループワークで地域の縦横の連携をつくるのに役立ったと考えている。

・津田 明美(医師)

年月日	2024年7月10日
場 所	オンライン(スクラム福井 福井県総合福祉相談所)
名 称	発達障害児者福井県方式支援ツール「子育てファイルふくいっ子」活用のための保育士等研修会【基礎編】
タイトル	発達障害の理解と支援
要 旨	障害とは何か？発達障害とは何か？ 発達障害の支援が必要とされる理由、発達障害者支援法の成り立ち 療育とは何か？ 実際の関わる方法(視覚的支援・構造化・ABA を使った行動へのアプローチ)(ほめる子育て(ABA)) ふくいっ子ファイルについての説明

・津田 明美(医師)

年月日	2024年8月2日
場 所	福井市明倫中学校
名 称	校内研修会
タイトル	学校の先生の疑問にお答えします。
要 旨	①県内の発達障害を診る医療機関について ②学校と医療(療育)との連携について ③子育てファイル「ふくいっ子」について ④先生の質問 という内容で研修会を実施した。

・津田 明美(医師)

年月日	2024 年 10 月 9 日
場 所	オンライン(福井県社会福祉センター)
名 称	福井県 保育士等キャリアアップ研修会(障害児保育)
タイトル	保育士等キャリアアップ研修 障害児保育
要 旨	障害児保育の最終講義として、前 4 回の講義の振り返りをおこなった。 福井県の体制をふまえて、テキストの ■ 障がい児保育に関する現状と課題 (第 1 章第 3 節) ■ さまざまな障害の見方と支援 (第 2 章第 1 節) の内容をお話した。

・津田 明美(医師)

年月日	2024 年 12 月 20 日
場 所	アイアイ鯖江
名 称	令和 6 年度 母子保健技術研修会
タイトル	乳幼児健診についてあらためて考える
要 旨	国の施策として 5 歳児健診が話題になっている。 今までの乳幼児健診の歴史、意義について確認し、今 5 歳児健診を市町単位ですることについて考えるきっかけとした。

・川谷 正男(医師)

年月日	2024 年 7 月 31 日
場 所	福井県特別支援教育センター
名 称	令和 6 年度 医療的ケア特定行為従事者(教員)研修
タイトル	医療的ケア(呼吸障がい)について
要 旨	福井県教育委員会が主催する令和 6 年度医療的ケア特定行為従事者(教員)研修の講師を担い、主に特別支援学校の教職員のために特定行為業務従事者研修(第 3 号研修)の中の医療的ケア(呼吸障がい)について講演を行った。

・川谷 正男(医師)

年月日	2024 年 8 月 30 日
場 所	春江保健センター
名 称	令和 6 年度母子保健関係職員勉強会
タイトル	乳幼児期の精神発達と発達障がいについて
要 旨	福井県坂井市健康福祉センターが主催する令和 6 年度母子保健関係職員勉強会で講師を担い、主に坂井あわら地区の保健師や保育士を対象に、乳幼児期の精神発達と発達障がいについて講演を行った。

・川谷 正男(医師)

年月日	2024 年 10 月 4 日
場 所	敦賀市医師会館
名 称	令和 6 年度 学校医・養護教諭懇談会講演会
タイトル	学校におけるてんかんを持つ児童生徒への対応
要 旨	敦賀市医師会が主催した令和 6 年度学校医・養護教諭懇談会講演会の講師を担当し、主に敦賀市内の学校医や養護教諭を対象に、学校におけるてんかんを持つ児童生徒への対応について講演を行った。

・川谷 正男(医師)

年月日	2024 年 11 月 5 日
場 所	フェニックスプラザ
名 称	令和 6 年度 第 4 回発達障害児支援研修「投薬について」
タイトル	自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、睡眠障害に対する薬物療法(小児科の立場より)
要 旨	福井県発達障がい児者支援センタースクラム福井と福井市障がい者自立支援協議会が主催した医療から学ぶ発達障害児支援研修の中で、福井県内の医療・保健・教育・保育・福祉等の分野で児童の支援及び教育に携わる方を対象に、令和 6 年度第 4 回発達障害児支援研修「投薬について」の講師を担当し、小児科の立場から自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、睡眠障害に対する薬物療法について講演を行った。

・川谷 正男(医師)

年月日	2024 年 12 月 18 日
場 所	福井県立看護専門学校
名 称	令和 6 年度 福井県立看護専門学校 学生講義
タイトル	子どもの発達と障がい
要 旨	福井県立看護専門学校の学生を対象に子どもの発達と障がいについて講義を行った。

・川谷 正男(医師)

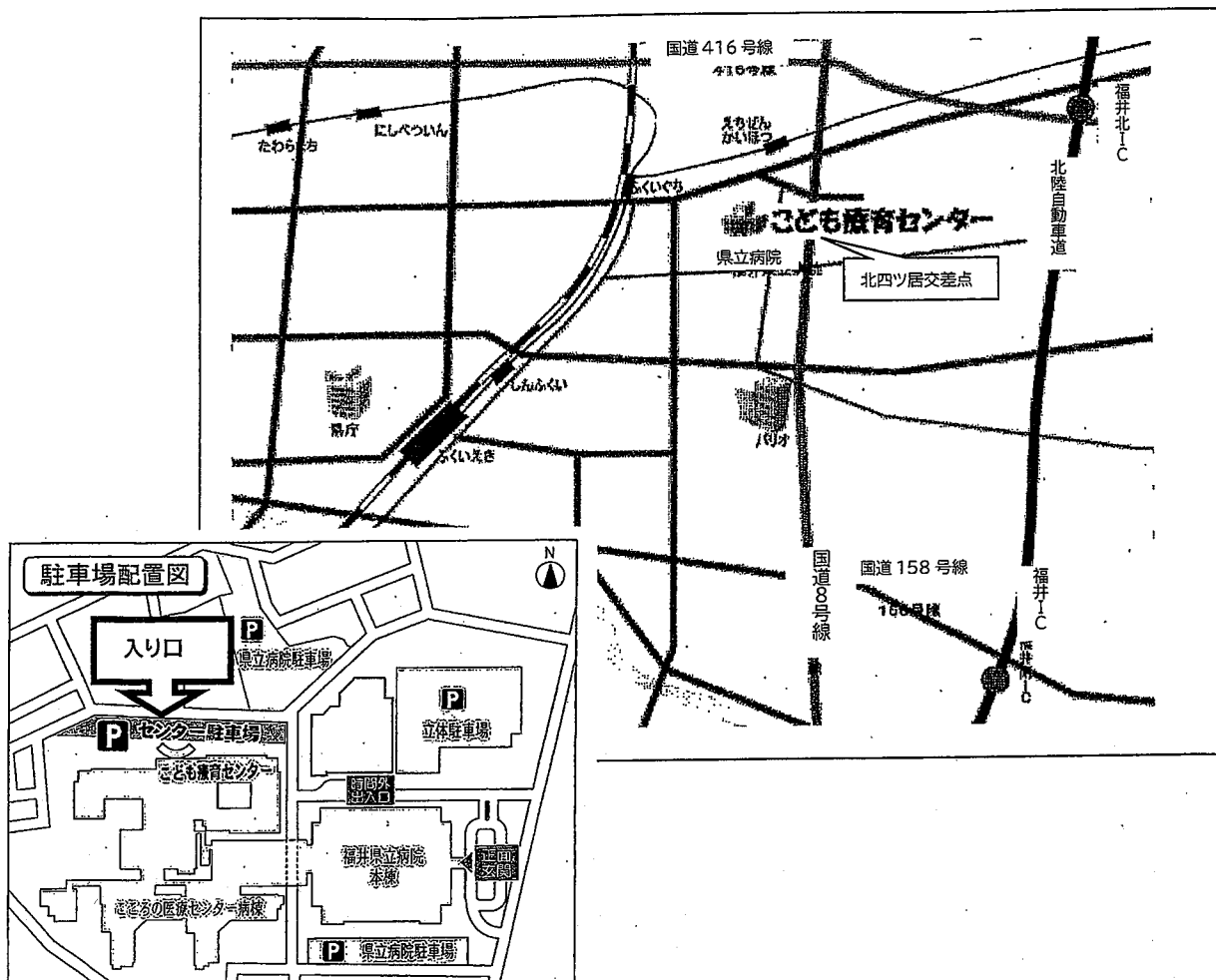
年月日	2025 年 1 月 18 日
場 所	福井県商工会議所
名 称	令和 6 年度 福井県栄養士会研修会
タイトル	学校における個別的な相談指導推進のために「発達障がいの理解と栄養指導における注意点」
要 旨	福井県栄養士会が主催する令和 6 年度研修会で講師を担い、主に福井県内の学校栄養士を対象に、学校における個別的な相談指導推進のために「発達障がいの理解と栄養指導における注意点」という内容で講演を行った。

・塚谷 桐子(理学療法士)

年月日	2024 年 10 月 1 日
場 所	坂井健康福祉センター
名 称	坂井地区母子保健関係機関職員勉強会
タイトル	発育性股関節形成不全の予防「赤ちゃんの抱っこ・おむつ交換の仕方」
要 旨	赤ちゃんの股関節脱臼予防は新生児期から抱っこやおむつ交換など日常的なケアを正しく行うことが重要となる。 今回、保健師・保育士対象に講義・実技指導を行った。 赤ちゃんが両股関節を開いた状態で抱っこするたて抱っこ(コアウ抱っこ)について説明し、実際に参加者に赤ちゃん人形で抱っこを行っていただいた。 また、おむつ交換時に、両下肢を屈曲させてお尻をあげた状態で交換する方法を指導し、実技を行った。 スリングや抱っこ紐使用時の注意点について述べた。

・三谷孝之(理学療法士)、木下美智子(作業療法士)、里千鶴(言語聴覚士)、栗原恵(作業療法士)、土田久美子(言語聴覚士)

年月日	2025 年 1 月 24 日
場 所	市民プラザたけふ 3 階中会議室 2
名 称	障害児通所支援事業所支援技術向上に関する研修会
タイトル	福井県こども療育センターの紹介と子どものリハビリテーションで大事にしていること
要 旨	越前市児童発達支援センターなないろ主催による、越前市内で障害児通所支援事業所に勤務するリハビリテーション職を対象とした研修会に講師として参加した。 研修会では地域支援課より、当センターの概要と地域支援活動について紹介し、リハビリテーション室より、評価の仕方や小児リハビリの考え方などを実際の評価用紙や参考とすると良い文献などとともに伝えた。 その後、職種ごとのグループワークに参加し、福祉事業所におけるリハビリについての意見交換や、相談に対する助言などを行った。



◎ えちぜん鉄道・・・「福井口」下車 徒歩 約 10 分

◎ 京福バス・・・福井駅バスロータリー(西口) ①のりば

「36 県立病院丸岡線」 「39 大和田丸岡線」 ⇒ 「県立病院」下車
福井駅からバスで約 13 分、その後、徒歩 約 5 分

福井駅バスロータリー(西口) ⑥のりば

「1 すまいるバス すまいる東ルート 城東・日之出方面」

⇒ 「県立病院口」下車

福井駅からバスで約 30 分、その後、徒歩 約 8 分

療育のあゆみ 2024 年（令和 6 年）度業務統計

2025 年 7 月 発行

編集・発行 福井県こども療育センター
〒910-0846 福井市四ツ井 2 丁目 8-1
電話 0776-53-6570
FAX 0776-53-6576